

ジャーナルに係る論点・課題

（第1回での議論を踏まえて）

1. ジャーナルの購読料負担への対応

- 各大学等におけるジャーナル経費負担の状況
- 各大学等におけるジャーナル利用の状況（利用統計等）
- 契約形態の検討、購読するジャーナルの選定
- 新しい契約形態についての検討
- 価格交渉力の強化
 - ・ 大学等の研究部門との連携、情報共有
 - ・ 研究開発法人等との連携
 - ・ 大学等執行部のコミット（大学の経営・情報資源戦略との関係）
 - ・ トップ大学や大学等の規模等で括った交渉
 - ・ 契約・交渉の形態（学長等主導、学長連合等）
 - ・ 諸外国の交渉の背景、実状、成果及び効果の検証
 - ・ 海外有力ジャーナルの査読への対応
- JUSTICE に集まる情報の大学等へのフィードバック
- 海外有力ジャーナルの査読への協力の是非
- 「arXiv」のようなりポジトリの活用
 - ・ 特に物理、バイオ、情報分野では積極的
 - ・ 他分野への展開の可能性
- セーフティネットの確保
 - ・ 交渉の結果、契約を中止した後の影響（ビッグディール契約を中止した実例）
 - ・ ビッグディール以前の購読誌の規模
 - ・ プレプリントなどの活用
 - ・ グリーン・オープンアクセス（セルフアーカイブ）の促進
 - ・ バックファイル整備の在り方、現状把握

2. オープンアクセス化への動きへの対応

- OA2020、PlanS など欧州諸国が推進するオープン化への対応
 - ・ 現状の把握
 - ・ 我が国としての対応の方向性

- ・ 競争的資金における枠組み
 - ・ 海外の（助成の）事例
- 大学等における APC 負担の状況
 - ・ 各大学等におけるデータ把握の要請
 - ・ データ収集（調査の実施）
- 大学院生及び若手研究者等への影響
 - ・ 真に困窮している研究者の実状
- OA を含めた契約モデルの検討
 - ・ 大学内等の業務及び経費の分担、連携の在り方
 - ・ 法人会計の対応の可否
 - ・ 購読料高騰への対抗軸に成り得るのか否か
- 諸外国との連携・協力

3 . 研究成果の発表・公開の在り方

- 我が国の研究者の論文の発信力強化
 - ・ トップジャーナルのエディターに我が国の研究者を増やす取組
 - ・ 我が国の研究者が筆頭著者である論文のオープンアクセス化
- プラットフォームの強化
 - ・ 我が国のプラットフォームサービスの在り方
 - ・ J-STAGE の機能強化
 - ・ 機関リポジトリ（JAIRO Cloud）の拡充、機能強化
 - ・ 各大学におけるプラットフォームの強化に関する取組
 - ・ プレプリントなど新たな動きへの対応
 - ・ データジャーナルへの対応
- オープン査読制（論文とともに査読結果が公開される査読方式）の検討
- 我が国のジャーナルの発信力強化
 - ・ 我が国のジャーナルの質的向上
 - ・ メタデータの機械可読化、オープンアクセスライセンスの表示
- オープンアクセスジャーナルの育成（成果公開促進費）の強化
 - ・ 科学研究費補助金 研究成果公開促進費（国際情報発信強化）の検証
- 将来の研究成果公開の考え方

4 . 研究者（及び研究機関の）評価の在り方

- ジャーナル（の種類）や論文（の数）のみに依存しない評価の在り

方

- ・ 複数手法の導入、多角的評価
- ・ 新たな評価指標の開発・整備
- ・ 我が国発の評価指標の事例
- 研究者コミュニティ（学協会等）の意識
- 研究分野ごとの違い

5 . その他

- 研究データを巡る状況
 - ・ データポリシー策定の促進
 - ・ 研究データの保存・管理の重要性
 - ・ 出版社の動向（囲い込み）
 - ・ データ共有の基準としての FAIR（フェア）原則導入の重要性
- 研究成果公開・発表に係る産業の発展